

北京大学合同ワークショップでの経験

リーディング理工学博士プログラム

2期生(LD2) 野間口達洋

北京大学にて行われた早稲田大学との合同ワークショップは、自分の専門分野外の知識を学び考察する俯瞰力、英語でサイエンスディスカッションを行う語学力を鍛えると同時に、新たな交友関係を作る事ができた、非常に有意義なものとなった。

今回のワークショップでは、発表日の1ヶ月程前に早稲田大学-北京大学の大学院生で混成グループを割り当てられ、それぞれのグループがネット等を用いてミーティングを行いつつ発表準備を行うという、特殊な事前準備を要した。私のグループの選択テーマは「Sensors for the next generation」であり、リーディング理工学博士プログラムが提供してくれたビデオ会議システム(大人数用のテレビ電話システム)を用いたミーティングを週1の頻度で行い準備を進めたが、お互いに第二言語である英語を使用した、しかも専門外の分野での発表準備は難しく、意思疎通に苦勞する場面も多くあった。しかし、だからこそお互いに密なコミュニケーションを取ることが出来、結果として非常に良い友人となることが出来た。

実際の発表では「Controlling the future: Smart sensing system with low energy consumption」というタイトルで、センサーの運用をより高効率かつ電気エネルギーレスで行うシステムを考察した。現在研究が進められているセンサーの小型化と、体温を用いた発電システムに着目し、1デバイス-1センサーの体系ではなく、1ターゲット-1センサーにすることでセンサーの応用領域の拡大と電気エネルギーを用いないグリーンな運用を提案した。グループ全員がセンサーと全く異なるフィールドを専門としている学生だったが、それ故に準備の際には多くの新しい知識を学ぶことが出来、今後リーディング博士プログラムにおけるエナジーネクストの考察に非常に有用になると感じた。



北京大学院生によるキャンパスツアー



発表とディスカッション